横山禎徳著「超高齢社会の国家戦略 - 『組み立てる改革』急げ - 」

読売新聞 2010年1月16日朝刊を読む

1. 日本が直面する最大の課題は、人類史上初の課題でもある超高齢社会をどうやって経営するか、である。この課題には、ばらばらな印象のあるマニフェストを無理やり実施するのとは違う、新しいアプローチが必要だ。
2. そのアプローチが「社会システムのデザイン」である。
3. 現在の医療システムや教育システムは、病院や学校だけでなく、通信、建設、保険などの各産業と連携し、生活者に価値を提供している。「デザイン」とは、ばらばら要素を結びつけるという試行錯誤を通じて、各種産業の横断的な連携を「組み立てる」作業である。
4. 超高齢社会に対応するには、高齢者の生活に直結する年金、医療などのシステムを、新たにデザインする社会システムとの連携も含めてデザインし直す必要がある。
5. 例えば、国民医療費を抑制するだけでは課題に対する答えにならないことは誰でもわかる。一方で、「寝たきり老人」が依然多いこと、健康寿命が長いことが医療費や介護費の抑制にも聞くこと、さらに高齢者の社会参加で健康寿命が延びることなど、既に分かっていることは多いが、縦割りで統合的施策になっていない。
6. 「寝たきり老人」を起こすだけでなく、「目的と責任感を持って動き回る老人」にし、社会参加する高齢者を大幅に増やすことができれば、医療費、介護費削減にもプラスの影響があるはずだ。しかも、活動的な高齢者は消費活動も活発である。そのような高齢者を増やす新たな社会システムをデザインすることは、実際的で多面的効果がある。
7. 現在 65 歳を過ぎても働ける人は多い。高齢者が望むように週 3、4 日働けるような「年齢不問型」の雇用システムをデザインすることができれば、残りの日に別な仕事をする人もでてくれば、休みたいという人もいるだろう。田園や都市の生活を楽しむという生活を好みによって組み合わせることができ、様々な暮らし方ができる。これもひとつの豊かさだろう。
また、「2 か所居住システム」があれば、「人生は 1 回だが、生活は 2 か所で」という生活スタイルを支えることもできる。

8．日本には既に 800 万戸近く住宅が余っている。上屋の改良を資産評価し、売買価格が決まる住宅供給システムがあれば、古い住宅を安く買い、改良し、高く売ることも可能になる。これによって、日本の住宅資産の質も向上し、消費も増えるという良循環が生まれる。

9．既存のシステムとは発想の異なる社会システムを上手にデザインし、様々な産業間に横串を通せば、高齢化の中で経済的に成り立つ社会を実現することは可能なのだ。

- 2010 年 1 月 18 日 林明夫記 -